

国

語

(解答番号)

1

}

42

(

国 語

試験時間60分

〔注 意〕

1. この問題冊子は指示があるまで開いてはいけない。
2. 受験番号が正しく記入・マークされていない場合は0点となる。
3. 解答はすべて解答用紙の所定欄にマークすること。例えば、問題文中に

10

 と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の〈例〉のように
解答番号10の解答記入欄の③にマークすること。正しくマークされていない
 場合は採点できないことがある。

(例)

解答 番号	解答記入欄 (マーク)									
10	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

4. 問題冊子の各ページの余白は自由に使用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
5. 試験終了後、解答用紙は通路側に置くこと。なお、問題冊子は持ち帰ること。

〈マーク式についての注意〉

1. 機械が読み取って採点するので、折り曲げたり汚したりしないこと。
2. マークはHBの鉛筆で枠の中を濃く塗りつぶすこと。
3. 1つのマーク欄には1つしかマークしないこと。
4. 訂正はプラスチック消しゴムでよく消し、消しくずはきれいに取り除くこと。
5. 所定欄以外には何も書かないこと。

問題 1 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

アメリカの社会学者A・R・ホックシールドは、E・ゴフマンの儀礼的相互行為論や自己のドラマトウルギーを批判的に①「ケイショウし」、「感情管理」に関する社会学的議論を展開している。社会には感情を感じるべき場所、感じるべき感情の種類、感情の強度や持続性の範囲を指示する暗黙のルール、すなわち「感情規則 (feeling rules)」が存在する。感情と、それに対応する行為には「適切な」範囲 (proper range) が社会的場面に応じて規定されており、人々はそれに沿った感情を表現するべく「感情作業 (emotion work)」を行っている。

たとえば、気乗りしない宴席に仕事で参加し、日頃からよく思っていない上司から一気飲みやお酌を強要される場合を考えよう。内心ではまったく楽しいと思っておらず、むしろ不快に思っているが、私たちは笑顔で応じ、「楽しさ」を演出する。このようなうわべの取り繕い、言いかえれば「表層演技 (surface acting)」を行う時、行為者は「楽しくない」「不快である」という気持ちを現状保存したまま横に置き、その場の感情コードに沿うように外面的行為を操作している。あるいは、「どうせ参加するのなら、本当に楽しく過したい」と考えて、自分の気持ちを「高揚させる」努力をする場合もある。このような「深層演技 (deep acting)」を行う時、行為者は自らの「楽しくない」「不快である」という感情自体に働きかけ、「楽しい」「快い」という感情に質的に変化させている。

②「行為者がこうした感情作業を行うのは、宴席では「楽しさ」「和やかさ」「くつろぎ」といった種類の感情状態を演出するのが適当である」という共通理解があるためである。宴席で暗い表情や難しい顔をしていると、「どうしたの?」「なぜそんなに暗い顔をしているの?」と周りの人から尋ねられるだろう。もしくはは一気飲みやお酌を断り、不快感を表明すれば、「ノリの悪い奴だ」「何を本気で怒っているのか」「そんなことでは仕事にならないぞ」とたしなめられ、説教される。その場の感情コードに沿った感情を演出している場合、他者がその感情の理由や説明を求めることはない。取り立てて感情の理由や説明を求められる時というのは、状況に合致する種類の感情を演出していない時、すなわち「感情の慣習 (emotional conventions)」

が乱れ、「修理 (repair)」「点検 (check up)」を行うべきだと周囲に認識される場合である。

また、たとえその場に合致する種類の感情を演出していても、あまりにも羽目を外して大声で笑い続けたり日頃の鬱憤をぶちまけたりなどすれば、それは「楽しさ」や「くつろぎ」の演出過剰になり、感情の「適切な範囲」から逸脱してしまう。むしろ、それらも「お酒の席でのこと」と受け流すような、^a更なる感情の作法が存在するため、その場では大事に至らないだろうが、ボディーブローのように後々の人間関係に響くことはあるかもしれない。このように感情管理は微妙なさじ加減で成り立っており、状況の参加者たちのおのが演技者であると同時に「観客 (audience)」として^bジョサイなく振る舞う中で、^c「舞台」上の相互行為が「筋書き」通りに進行する。

それでは、^d人々はなぜ感情作業や感情管理を遂行するのだろうか。それは、適切な感情を演出することが他者への敬意の表明、言いかえれば「捧げ物 (offering)」であるとみなされているからである。行為者は感情規則に従って、相互の関係性の中で何を「支払うべき」なのかを判断し、互いに貢ぎ物を納めあっている。

たとえば、上司が仕事の指導してくれた場合、たいていの部下は感謝や尊敬の気持ちを呈示する。この時、本当に感謝や尊敬の念を覚えている場合もあれば、特に有用な指導ではなかったために有難く思っていない場合もある。さらに悪いことには、時代遅れの仕事の仕方だと見下していることもあるかもしれない。しかし、本音はどうであれ、上司から受け取った「親切さ」「丁寧さ」「配慮」に対して、「感謝」や「尊敬」の意を返礼することになる。相手の顔を見つめ、傾きながら話を聞くこと、オープンな笑顔、感謝の言葉。「誠実さの呈示 (sincere display)」は表情や言葉の選び方、声の調子によって達成される。感情作業を通して感情を整え、「適切な」感情を互いに贈りあうことは、「文明化された生活の基本的な技術 (skill)」である。

通常、このような「感情」の贈りあいは相補的に行われる。それゆえ、「捧げ物」に対する「返礼 (payment)」について贈る側と受け取る側に共通認識がない場合、人間関係にコンフリクトが生じる。上司が指導したことに対して部下が十分な感謝や尊敬を表明しない場合、上司は面白くないと感じる。贈り物を受け取る側の反応が鈍く、贈る側が十分な返礼をされてい

ないと感じる時、贈る側には不快感や怒り、当惑が生じる。「あの態度は何だ、失礼じゃないか」「生意気だ」「懲らしめてやる」。感情や敬意の「支払」に関する見積もりの違いが、ハラスメントの引き金になる。

すなわち、「感情の贈与交換 (emotional gift exchange)」は、同等の地位にある人々の間で行われる場合は相補的で均衡を保ったものになり、その贈与交換にかかるコストは得られる報酬に匹敵する。その一方で、「関係性や地位に高低の差がある場合には、下位者の方がより多くの感情や敬意を捧げることになり、感情の贈与交換の相補性は表面上のものになりやすい。下位者は、上位者よりも感情規則に敏感でなければならず、上位者よりも多くの「感情作業」を行っている。高い地位にあるものは、「感情的報酬 (emotional rewards)」に対する自らの要求を通しやすく、要求を強制する手段にもアクセスしやすい。部下や新入社員、女性の従順な振る舞いが当たり前のこととみなされる一方で、笑顔や感謝、賞賛や配慮の言葉を発する必要のないことが地位の高さを示す指標となる。感情作業を行う義務と負担は、社会的地位や属性にしたがって不公平に割り当てられている。

ここで、大手広告代理店の新入社員が上司とともに参加した飲み会で、余興として上司が脱いだ靴にビールを入れて飲むことを強要され、お酒に弱いために断つても無理やり飲まされたこと、その上、「飲みっぷりが悪い」と言われて靴の踵で頭を叩かれたという事例を考えよう。

彼が屈辱を感じたであろうことは察するに余りあるが、彼はその場で怒りや悲しみを露わにすることはなかった。宴席では「楽しさ」「和やかさ」を表出すべきという **イ**、そして、上司と部下という立場上の「**ロ**」の不均衡さが彼を困難な **ハ**へと差し向ける。

というのも、期待される仕方感情を贈らなかつたり、不適切な感情を贈ったと周囲に認識される場合、「失礼な人」だと響きを感じ、距離を置かれることになるためである。適切にマネージされた感情は、上司個人に対する捧げ物であると同時に「集団への捧げ物 (contribution to the group)」でもあった。その場を台無しにしないことが、上司と自分との関係、取引先と自社との関係を良好に保つために重要だと判断される時、人は自らの感情を無理やりにも操作し、場に合致したもの

へと成型して差し出す。

感情管理を遂行することは、相手への敬意や「私はこの場を尊重しています」という意志の表示であるが、それだけではなく、「愛されるべき存在」「他者から敬意を払われるに値する者」として自らを呈示する儀礼的行為でもある。互いに敬意を交換するサークルの中で「破綻のない人物」「社会人としてうまくやっていける者」であることを周囲に証明したい時、人はたとえそれが自らにとって大変な負担になることであってもわかっていても感情作業を引き受ける。

もちろん、いつも首尾よく感情を管理できるわけではない。

1

職場で人格を否定するような言動や暴力に³ソウグウした時、「やられたらやり返す」と相手を睨みつけて言うためには、ここまで述べたような幾重にも張り巡らされた「感情規則」の網の目をすり抜けるか破壊するかせねばならず、その努力とコストは甚大である。ハラスメントが「業務」と不可分の形態をとって現れる場合は、それが仕事なのかハラスメントなのかの判断がつきにくいため、なおさら困難である。

(山田陽子『働く人のための感情資本論』による。一部改変)

- (2)

3

① ジョジョに近づく

② 物語のジョジョ

③ 一定額をコウジョする

④ トッジョとして雨が降り出した

ジョ

サイ

① サイバンで勝つ

② 絵のサイノウがある

③ 石油をサイクツする

④ 監督がサイハイを振るう

- (3) 5

① 山でソウナンする

② 遺産をソウゾクする

③ 音楽をエンソウする

④ 文に句点をソウニユウする

ソウ | グウ

(6) 6

① イチグウを照らす

② グウゼンをよそおう

③ タイグウのよい仕事

④ グウワから教訓を得る

7

- ① 「感情の慣習」をあえて乱すことで、宴席を刺激的なものにするため
- ② 感情の「修理」「点検」を他人に求めることで、感情の適正化をはかるため
- ③ 気乗りのしない場ではあるが、「楽しい」という気持ちを意識的にもとんとするため
- ④ 各々の場面において、その場に合った感情規則にのっとってふるまうことが求められるため
- ⑤ 宴席で暗い顔をし、「どうしたの？」と周りの人から尋ねられるようにし、会話の糸口とするため

8

- ① その場に合致する種類の感情を過剰に表出する。
- ② ボディーブローのように後々の人間関係に響く原因となる。
- ③ その場では大事に至らないが後に影響を及ぼす運動性をもつ。
- ④ 感情の表出過剰をその場で追及すべきではないという規則のもとにある。
- ⑤ 言動の「適切な範囲」からの逸脱を周囲の人が糾弾するための目安となる。

9

- ① 演劇人のように、人々が自由に生き生きとふるまうさま
- ② 舞台監督になぞらえられる上司を前に、人々が上司の意向を汲み取ろうとするさま
- ③ すでに決められたルールのもとで、人々が固定化されたコミュニケーションをとるさま
- ④ 宴席にふさわしい表情づくりや振る舞いができるよう、人々が日々訓練をおこなないさま
- ⑤ 羽目を外したり、日頃の不満をぶちまけたりする人を、人々がはらはらしながら見守るさま

問五 波線部（d）の答えとして適切でないものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

10

- ① 宴会の参加者との関係を良好に保つため
- ② この場を尊重していることを他者に伝えるため
- ③ 社会人としてうまくやっていけることを周囲にアピールするため
- ④ 他者に対して「敬意」という貢ぎ物を納めることが求められているため
- ⑤ 上司の指導に対して「感謝」や「尊敬」を表明することで本心を隠すため

問六 波線部（e）について適切でないものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

11

- ① 「誠実さの呈示」の有無にかかわらず、ハラスメントの引き金になる。
- ② 贈るべき感情に関する、贈り手と受け手の認識の違いがコンフリクトを招く。
- ③ 指導者が十分に返礼されていないと感じる時、指導を受けた側への加罰的感情が芽ばえる。
- ④ 一例として、「親切さ」を受け取ったら「誠実さの呈示」によって返礼するという方法がある。
- ⑤ 同等の地位の人々の間で行われるぶんには、贈ったものと受け取ったものの価値は均衡を保つ。

問七 波線部（f）の説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

12

- ① 下位者は上位者に支配されなければならないということ
- ② 感情的報酬へのアクセス権の多寡が、地位の上下を決定するということ
- ③ 相手との関係性によって、求められる「感情の贈与交換」の多寡は異なるということ
- ④ 地位が低い者ほど、笑顔を作ったり、感謝・賞賛・配慮の言葉を発したりする義務があるということ
- ⑤ 部下と同じくらい上司も感情規則に敏感であれば、よりよい感情の贈与交換が可能になるということ

問八 空所イハに入る最も適切な語句を、次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。ただし、同じものを

二回以上使うことはできない。イは

13

、ロは

14

、ハは

15

- ① 感情規則
- ② 感情作業
- ③ 感情の網の目
- ④ 感情の贈与交換
- ⑤ 感情の表出過剰

問九 空所Iには次のA～Dの文が入る。これらを文脈に沿って順に配列したものと最も適切なものを、後の①～⑥の中

から一つ選び、マークして答えなさい。

16

- A 時には本音が漏れ出てしまい、失敗することもある。
- B その点が最初から感情管理を放棄している場合と大きく異なる。
- C だが、たとえそのような場面であっても、感情を管理しようとしたという事実、感情を装うために努力したこと自体が敬意表明の証とみなされる。
- D それゆえ、引きつりながらも笑顔を作ったり、屈辱や悲しみに打ちのめされそうになりつつもそれを表に出さず、無謀な「業務命令」をこなそうとするのである。

- ① A ↓ B ↓ D ↓ C
- ② A ↓ C ↓ B ↓ D
- ③ B ↓ A ↓ D ↓ C
- ④ B ↓ C ↓ A ↓ D
- ⑤ C ↓ D ↓ A ↓ B
- ⑥ C ↓ D ↓ B ↓ A

問十 本文の内容に即した記述として最も適切なものを、次の①～⑧の中から二つ選び、マークして答えなさい。ただし、解答の順序は問わない。

17

18

- ① 「文明化された生活の基本的な技術」のもとに作られた感情は、場を共有するすべての人々に対して贈与される。
- ② 上位者は、下位者に対して「感情的報酬」を強要しやすいうえ、感情や敬意の「支払」に関する見積もりを誤りやすい。
- ③ 職場で受けた暴力に仕返しをするには労力とコストを要するという事実が、ハラスメントと「業務」の境界をあいまにする。
- ④ たとえ感情管理に失敗しても、そこに感情管理をしようとする姿勢が見てとれば、他者に対する敬意表明の証と見なされる。
- ⑤ 人々は、楽しくない場面においても、自らを高揚させるべく、表層演技によって自身のネガティブな感情をポジティブなものに変換させている。
- ⑥ 上司が仕事の指導をしてくれた場合、部下は表情や言葉を慎重に選びながら、感謝の意を伝える。そこでは「感情の贈与交換」が等価交換となる。
- ⑦ 人は自身が「愛されるべき存在」と見なされるためであれば、過大な負担もすすんで引き受ける。しかし、そのことが職場における人格否定や暴力を誘発する。
- ⑧ 宴席で上司が脱いだ靴にビールを入れて飲むことは、新入社員にとっては「業務命令」なのかハラスメントなのか判断が付きにくい。ため、感情規則の成立が困難になる。

問題二 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

文明史的な観点に立つてみると、遊びと労働が分離されたのは近代以降であり、それまで人類は長期にわたり遊びと労働を区別せずに生きていたことがわかる。そこでは、大人に混じって子どもが興じる遊びには、少なくとも次の四つの機能があつた。

第一は、大人の生活・仕事・儀礼・祭礼などの模倣と演技（再演）という機能である。「学ぶ」ことは「真似ぶ」ことであるといわれる所以である。第二は、社会集団への帰属意識の再強化という機能であり、エミール・デュルケムがいうところの道徳性の起源のひとつとしての「集団への愛着」である。第三は、通過儀礼の機能であり、役割を獲得し、それが遊び仲間や共同体によって祭りや儀礼のなかで周囲から裁可（sanction）された。そして最後に第四は、これら三つの機能に、^a通底する伝承機能である。全体が個を規制する「存在の大きいなる連鎖」のなかで伝え合い、学び合う文化が営まれていた。これら四つの機能のいずれもが生産的であり、子どもたちは具体的な事物を媒介した「達成」の喜びを知り、何かを「創造」する感動や、「獲得」する楽しさと満足感を身体全体で「^bキョウジュ」していた。ここでは、遊びと労働が融合し、創造力と共感能力が活性化され、さまざまな創意工夫と儀式を伴ってそれらが伝達されていた。

ところが、近代になって、時間意識が功利主義的ないし資本主義的に単位化されるようになると、遊びと労働も区分され、ほぼ同時に大人の遊びと子どもの遊びも分離された。遊びと労働を区分する²「ケイキ」になったものこそ、近代の時間意識と分業の発達であった。労働時間や時給という概念に見られるように、労働は時間単位で価値づけられ、時間を基準に人間の能力が測定される。人びとは時間を競うスポーツや制限時間内の試験制度など、時間を区切る競争にさらされるようになった。

こうして、近代の学校の登場とともに、「時間制」に従って子どもの生活時間が^c「イ」されると、子どもの遊びの想像力と^d「I」の衰退は、きわめて緩慢に、ほとんど自覚されないうちに日常意識に沈澱しながら進行する。しかも、「新しさ」をふりまく社会心理学や情報科学が変化にさらされた人びとの脱思想化を進め、危機意識を抱かせないようにさえしてい

る。さらに、その過程で子どもの遊びは次の六つの傾向を強め、今日に至るまで子どもの遊びに変質をもたらしている。

その第一は、遊びの教育化である。これは一八世紀頃から本格的に始まり、さまざまな読み物や絵本などの開発に刺激され、種々の教育ゲームや罰則ゲームが考案された。第二は、遊びの選別の進行である。大人たちは、子どもの遊びと大人の遊びを分離し、さらに子どもの遊びを年少と年長に選別し、性差、階級、発達段階に応じた種別化を進めた。これに大人たちによる遊びの管理も加わり、禁止事項が増えた。それに連動して、第三は、遊びの空間管理の進行である。子どもたちは、昔のように大人の空間、たとえば仕事場や墓地では遊べなくなる。代わって一九世紀半ば以降に登場したのが遊び場、砂場、子ども遊園地であった。このような遊び空間の排他的管理は、子どもの遊びから自然の要素を少しずつ取り去り、やがてそれを剝奪した。第四は、遊びのルールの道德化、遊びの無害化である。よい遊びとわるい遊びが峻別されることによって、もともとあった遊びの固有の毒の魅力が削がれてしまい、遊びの標準化と無害化が進んだ。これは大人社会一般にも見られる傾向で、演劇の無害化、芸術の上品化、あるいは文化の二重化を意味する。今や人びとの行動は儀礼化された文化のなかで訓化され、商業主義によってパターン化された。その結果、近代社会は品格や上品さの規準から逸脱した者を狂人、異常者、非行者、変人として **ロ** に扱い、疎外するようになった。子どもたちの自由な遊びは「禁じられた遊び」となった。第五は、遊びの商品化と商業主義の進行である。これは遊びの個人主義化と連動している。一人遊びが増え、大量生産・大量消費されるおもちゃや産業が活性化した。最後に、第六は、遊びの室内化と密室化である。都市化とともに個人主義と私生活主義が進行した結果、伝統的な集団遊び（こっこ遊び）が解体し、一人遊びの自己満足が肥大化することによって、かつての集団遊びが持っていた社会化機能を縮小させることになった。

前近代から近現代までの子どもの遊びの社会史において、これら六つの傾向を強めたものこそ、近代の学校と資本主義経済であった。とくに、近代の学校は効率のよい維持、運営のために教育と人間形成のあり方を変質させ、人格形成から技術知の獲得へと教育概念そのものを大きく変えた。近代学校の整備は、子どもの遊びを変質させた。生活全体で子どもを教育する未

開社会の子どもの遊びは、学校教育の時代になると、イヴァン・イリイチがいう民俗慣行的な遊びの性格を失う。多元的で多様な遊びは衰退し、模倣対象も脱自然・非労働生産的で、いつそう消費志向になった。 **ハ** で周縁志向の強い集合的ないたずらや「禁じられた遊び」も、市場経済下の娯楽の蔓延によって消滅してしまった。このようなかつての共同体の時代の子どもらしい遊びは、子どもらしさの消失とともに変質した。子どもの社会史から見れば、 **II** 。

（北本正章「子ども観と教育の歴史図像学 新しい子ども学の基礎理論のために」による。一部改変）

問一 傍線部（1）、（2）の片仮名に該当する二つの漢字と同じ漢字を使うものとして最も適切なものを、それぞれ①～④の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

- | | |
|---|---|
| <p>(1) 19</p> <p>① 作品にキヨウミをもつ</p> <p>② 被害者のキヨウチュウを察する</p> <p>③ 人生をキヨウラクする</p> <p>④ 食糧をキヨウキュウする</p> | <p>(2) 21</p> <p>① 手堅いケイカクを立てる</p> <p>② 国民をケイハツする</p> <p>③ 事態のケイイを説明する</p> <p>④ 新たなケイヤクを結ぶ</p> |
| キヨウ
ジュ | ケイ
キ |
| <p>(1) 20</p> <p>① ナイジュに依存した経済</p> <p>② 大記録をジュリツした</p> <p>③ 彼はテンジュを全うした</p> <p>④ 多様な価値観をジュヨウする</p> | <p>(2) 22</p> <p>① キウ壮大な計画</p> <p>② イッキ当千の活躍をみせる</p> <p>③ コウキ肅正をはかる</p> <p>④ シンキ一転して頑張る</p> |
| キヨウ
ジュ | ケイ
キ |

問二 波線部（a）の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

23

- ① 共通している ② 連携している ③ 伝え合っている
- ④ 刺激し合っている ⑤ 助け合っている

問三 空所イ～ハに入る語として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

24

イ 24

- ① 差別化 ② 分節化 ③ 統合化 ④ 定型化 ⑤ 形骸化

ロ

25

- ① 恣意的 ② 儀礼的 ③ 相対的 ④ 総合的 ⑤ 排他的

ハ

26

- ① 文化的 ② 逸脱的 ③ 感傷的 ④ 偶発的 ⑤ 利那的

問四 空所Iに入る語として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

27

- ① 主体性 ② 寛容性 ③ 個別性 ④ 創造性 ⑤ 娯楽性

問五 空所IIに入る文として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

28

- ① この変質の精神的土壌を形作ったのは、近代の学校なのである
- ② この変質は学校の近代化こそが、生産性の向上をもたらすことに起因するのである
- ③ この変質による精神世界の充実をはかるには、学校の近代以前への回帰が求められるのである
- ④ この変質を止めるために、技術知の獲得へ教育概念を変えることが必然である
- ⑤ この変質は、近代以前に内包されていた功利主義的思想と近代以降における集団主義的思想の融合がもたらしたものである

問六 本文の内容に即した記述として最も適切なものを、次の①～⑩の中から二つ選び、マークして答えなさい。ただし、解答の順序は問わない。

29

30

- ① 近代を迎える前の遊びには、世代や社会集団間における伝承を内包していた。
- ② 近代以降において、遊びは教育化や無害化、空間管理の進行などを進め、近代以前に内包されていた社会の矛盾を解消することを促すこととなった。
- ③ 遊びの個人化は遊びがもっていた社会化機能を小ささせる一方で、遊びの道德化や遊びの無害化を促進することとなった。
- ④ 遊びを無害化することは、近代においては遊びに室内化と密室化をもたらし、個人主義化を進める結果となった。
- ⑤ 近代以降の遊びには集団への帰属性を高める仕組みが内包されていた。
- ⑥ 善悪を基準とした遊びの峻別は、子どもの遊びと大人の遊びを分離させてしまうこととなった。
- ⑦ 近代以降、大人たちによる遊びの管理が強まるとともに、結果として大人の空間と子どもの遊ぶ空間の区別が進むこととなった。
- ⑧ 近代以降に進んだ遊びと仕事の分離は、人々に想像力の喪失などの危機意識を抱かせた。
- ⑨ 近代を迎える前に遊びと労働を区別することで、生産性を大きく高めることが出来た。
- ⑩ 学校における時間割の登場は労働を時間単位で区切るような近代の登場を促した。

問題三

次の各問に答えなさい。

問一

文章が一通りに限定されるものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

31

- ① 夫は朝食後のコーヒーを飲みながら新聞にざっと目を通すのが習慣になっている。
- ② 今にも豪雨になりそうな空模様だったので母に傘を持っていくように言われた。
- ③ 妹が大好きなマカロンを黙って食べてしまった。
- ④ 彼はこのメンバーだったからこそ鍛えられたのだと心の底でわかっていた。
- ⑤ 弟は顔を真っ赤にして言い訳をする妹の顔を見ていた。

問二 (1)～(3)の文の「」に入る語句として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

32 ～ 34

(1) 突然のブーム到来により、今までまばらだった客が、のべつ「」なしに来るようになった。 32

(2) あの場をうまくおさめたAさんが票を集めたことを考えると、先日のトラブルは、まさに「」だったと言ってよいだろう。 33

- ① 試金石 ② 間一髪 ③ 白昼夢 ④ 生兵法 ⑤ 不条理

(3) このままでは「」事態を招く恐れがあるので、なんとかしなければ。 34

- ① すげない ② 遺憾ない ③ 忌憚ない ④ ゆゆしい ⑤ 心ない

問三

故事成語やことわざ、慣用表現を用いた(1)～(5)の文の空所に入る語句として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

35 ～ 39

(1) 子どものふざけた態度に「」をなす。 35

- ① 色 ② 襟 ③ 袖 ④ 筆 ⑤ 興

(2) 相容れない政策を掲げていた両党が、与党に対抗すべく「」で選挙に臨んだ。 36

- ① 漱石枕流 ② 換骨奪胎 ③ 漁夫の利 ④ 病膏肓に入る ⑤ 呉越同舟

(3) 次の試合で勝つためには、「」の陣を敷いて挑まなくてはならない。 37

- ① 敗水 ② 配水 ③ 輩水 ④ 杯水 ⑤ 背水

(4) 一心不乱にがんばる娘を、母は「」表情で見守っていた。 38

- ① 感に堪えない ② 身も蓋もない ③ 埒が明かない ④ 万難を排する ⑤ 死命を制する

(5) 初恋の苦々しい思い出は、大切に胸に「」おこう。 39

- ① 結んで ② 織り込んで ③ 畳んで ④ 飾って ⑤ 落として

問四

(1) ～ (3) の傍線部 (a) ～ (c) について、表記または言葉の使い方の方の正誤の説明として最も適切なものを、それぞれ①～⑧の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

40

42

(1) 彼がプロで成功する^a 保障はなかったが、皆が応援し、彼も^b 懸命に練習に^c 勤しんだ。 40

- ① (a) だけが誤り ② (b) だけが誤り ③ (c) だけが誤り
④ (a) と (b) が誤り ⑤ (a) と (c) が誤り ⑥ (b) と (c) が誤り
⑦ (a) と (b) と (c) が誤り ⑧ 誤りはない

(2) この施設は^a 篤士家の^b 寄符金によって^c 管理されている。 41

- ① (a) だけが誤り ② (b) だけが誤り ③ (c) だけが誤り
④ (a) と (b) が誤り ⑤ (a) と (c) が誤り ⑥ (b) と (c) が誤り
⑦ (a) と (b) と (c) が誤り ⑧ 誤りはない

(3) 彼女は^a 居丈高な^b 物言いをするので、^c 同寮から距離を置かれていた。 42

- ① (a) だけが誤り ② (b) だけが誤り ③ (c) だけが誤り
④ (a) と (b) が誤り ⑤ (a) と (c) が誤り ⑥ (b) と (c) が誤り
⑦ (a) と (b) と (c) が誤り ⑧ 誤りはない